

現役だった頃のD51 201
黒煙を吐きながら走ります



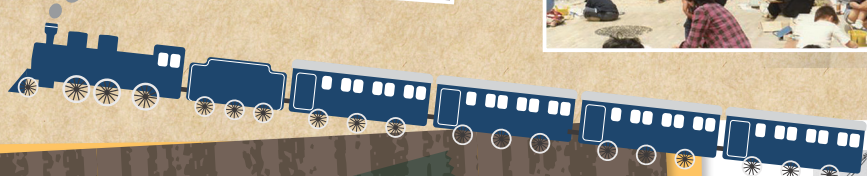
機関車開放日には多くの
人が訪れました



当初は金網で囲われ、自由に
入ることはできませんでした



第3回写生大会、この頃は
まだ博物館がありません



SLが蒲郡へ やって来た

昭和47年、市内の小学生から
「蒲郡にSLが欲しい」という手
紙が届きます。その願いを実現



させるため、当時の市長が国鉄
に働きかけ、国鉄中津川機関区
で廃車予定のSLを譲り受ける
ことになりました。そして翌年、
昭和48年11月6日にSLが本市
へやってきました。昭和51年
には、「SLをいつまでも美しい姿
で」との想いから、SLの整備・
保全を行う「蒲郡SLを守る会」
が発足し、現在に至るまで活動
が続けられています。蒲郡へやっ
てきて50年が経ち、今では博物
館のシンボルとなっているSL。
この先も多くの人に愛される存
在であり続けるでしょう。

SLの形式称号 大解説

D 51 201

(A) (B) (C)

(A) 動軸（車輪を取り付けている軸）の数

記号	B	C	D	E
動軸数	2	3	4	5

(B) 機関車の種類

10～49 タンク機関車

本体に石炭と水を積んでいる機関車

50～99 テンダー機関車

本体の後ろに石炭と水を積む車両を連結し
ている機関車

(C) 製造番号

製造された順につけられる番号